

せき し 積志地区

●村の変遷●

明治41年(1908)、有玉村、中郡村及び小野田村のうち半田が加わって積志村となりました。

有玉村は、明治9年(1876)に、上瀬村、松木島村、新村、町田村畑屋村、下村、欠下村の七つの村が合併してできました。中郡村は明治22年(1889)、万斛村、漆島村、西ケ崎村、橋爪村、上大瀬村、下大瀬村、上前島村の七つの村が合併し万斛村を組織しましたが、2年後、中郡村と改称しました。

昭和32年(1957)、東区内では最も遅く浜松市に合併しました。

① 甘露寺の中門・甘露梅 C-3

にしまんごく りんざいしゅうほう うさんかんろし こさつ
西方斛にある臨済宗法雨山甘露寺という古刹です。古くは真言宗の寺として、弘仁年間に弘法大師により創建されました。寺の庭前には梅の古樹があり、家康が「未開紅甘露梅」と名づけて観梅した由緒深い寺です。中門は桃山時代の様相と技法が伺われ、特に斗組、懸魚、左右の支柱に特色があつて歴史的価値があり、市の文化財に指定されています。

② 龍秀院の枝垂れいちよう B-3

りゅうしゅういん しだ
有玉北町の宝玉石龍秀院は、開創以来火災にあつていないという稀有の存在とみられ、古文書も多数無傷で残っています。また、枝垂れいちようは、ぶんか 15年(1818) 当院十六世、大興東仙和尚が、京都・伏見稲荷大社から伏見稲荷ご分霊を当院へお迎えした記念に植樹したものです。樹齢約200年。昭和62年(1987)10月に浜松市保存樹第28号に指定されました。

⑥ 蔵泉院の正覚坊大権現 C-3

しょうかくぼうだいこんげん
境内に正覚坊大権現が祀られ、鎮守となっています。正覚坊は大海亀のことで水難除けに祀られたと言われています。

⑦ 法源堂(ほうげんどう) B-3

江戸時代、この地域の住民に法源さまと親しまれた後水尾院帝の皇子である法源和尚が祀られています。

⑧ 松岳院の句碑群と子宝地藏 B-3

とちぎいばく とぶびいじん くるめかんごく
榎木夷白と並ぶ俳人である久米甘谷の句碑が建っています。境内には子宝地藏があり、多くの参拝客が訪れています。

⑨ 榎木夷白の句碑(とちぎいばくのくひ) C-4

いばく かんせい 9年(1797) 下大瀬に生まれ、幼少期から俳諧の道に入り、遠江の二大家といわれました。

⑩ 風船落下の碑(ふうせんらっかのひ) C-4

ふんせんとりゅう
福井県武生市武生東小3年3組が手紙を付けて飛ばした風船を、昭和36年(1961)11月23日積志小学校の児童が拾った縁で手紙の交換等の交流が始まりました。この碑は、交流15周年記念に建てられたものです。

⑪ 大菩薩坂(たいぼさつざか) A-4

ほんざかどおり うどうざか
本坂通にかかる宇藤坂の北側にある、平野から三方原大地に上る勾配の強い坂道。元龜3年(1572)12月、武田信玄が大軍を率いて三方原合戦に臨んだとき、天竜川を渡河し平野を横切り、欠下城跡南側の大菩薩坂を上り大菩薩山に陣を構えたといわれています。



③ 旧鈴木家屋敷跡 C-3

まんごく
旧万斛村の鈴木権右衛門は室町時代から続く家柄で、徳川家康が浜松城に入城し遠江全域を支配する際に、万斛組といわれる万斛村とその周辺の村々の代官の役割を与えられました。鈴木家は江戸時代にわたって古独礼庄屋の地位にあり、古独礼庄屋の中でも『独礼総代』という、より大きな権威を与えられ、強い統率力を持っていました。家康との深いつながりを示す言い伝えに、家康は鈴木家に側室の阿茶の局を預け、狩のときなどに頻りに訪れたとされています。



④ 龍泉寺の阿弥陀堂 B-3

りゅうせんじ あみだどう
阿弥陀堂は正保4年(1647)の再建で、鎌倉建築様式の貴重な建造物です。本尊阿弥陀如来は行基の作と伝えられています。

元龜3年(1572)徳川家康公は、三方ヶ原の戦いに敗れ逃げ帰る途中、身を隠した阿弥陀堂に阿弥陀如来が現れ、布橋の戦略を授かりこれにより浜松城落城を免れ、徳川300年の礎となったと伝えられています。その因縁により家光以来代々御朱印を賜り、三つ葉葵を寺紋とする寺院です。また、この阿弥陀堂付近からは、奈良時代の土人形や土馬など、まつりに使われた品物も見つかっています。一方、禅の道場として全国的に有名な座禅堂には、多くの求道者が訪れます。

⑤ 八坂神社の樹林 B-4

やさかじんじや
こんもりとした樹形が自然美を作り出している八坂神社の樹林は、平成15年(2003)3月31日保存樹林(保存樹林第69号)に指定されました。指定面積6,500㎡の広大な敷地内に、常緑の高木で耐湿・耐寒性に優れている



クス、シイ、ヒノキ、アラカシ、タブノキなどの樹木が連立しています。これら樹木の枝が折り重なるようにして形成された樹林は、美しく趣のある風景を醸し出しています。

⑫ 千人塚古墳群(せんにんづかこふんぐん) A-4

千人塚古墳群は、浜松市内最大の規模で、直径49m、高さ7.2mもある古墳時代中期後半の円墳です。

⑬ 高林家とその長屋門(たかばやしけとそのながやもん) B-4

あitamashimura
高林家は代々有玉下村の庄屋を務め、古くから藩主に謁見を許されていました。長屋門は約200年前に建てられたものです。

⑭ 有玉神社と流籠馬(ありたまじんじやとやぶさめ) B-4

ありたまじんじや やぶさめ
徳川家康公が大坂(今の大阪)より帰陣後、秘蔵の乗馬を奉納、以来流籠馬神事を例大祭の特殊神事として400年の伝統を今に伝えています。



⑮ 最古の道標(さいこのどうひょう) A-4

てんぼう きざ
「右、きが・かなさし/左、庄内道」とあり、裏面に天保3年(1832)と刻まれています。建立年月が刻まれている道標としては浜松最古といわれています。